ジャンル / 小説

Novelist

江戸川乱歩

EDOGAWA Ranpo

代表作

『D 坂の殺人事件』（1925 年）
『パノラマ島奇談』（1926 年）
『陰獣』（1928 年）
『押絵と旅する男』（1929 年）
『孤島の鬼』（1930 年）
『白髪鬼』（1931 年、黒岩涙香による翻案を再筆）
『黒蜥蜴』（1934 年）
『怪人二十面相』（1936 年）
『幻影城』（1951 年、評論）
『探偵小説四十年』（1961 年、自伝）

ほか多数
※映像化されたものを含む

活動略歴

1894 年	本名・平井太郎。三重県名張町（現・名張市）で生まれ翌年に亀山町（現・亀山市）へ転居。
1897 年	**3 歳で名古屋市園井町へ引っ越す。その後 18 歳になるまで名古屋市内を 5 回転居する。名古屋市白川尋常小学校、入学名古屋市第三高等小学校、愛知県立第五中学校に通った。その頃友人と雑誌作り。**
1912 年	父の経営破産により朝鮮へ渡るが、単身帰国し上京。
1917 年	三重県鳥羽市で就職、2 年後結婚。
1923 年	小酒井不木に激賞され『二銭銅貨』でデビュー。行き詰まりながらも作品を執筆。
1936 年	『怪人二十面相』シリーズが生まれる。
1946 年	探偵小説誌『宝石』の編集・経営に携わる。
1947 年	現・日本推理作家協会の前進である日本探偵作家クラブを設立。江戸川乱歩賞が制定。
1965 年	東京の自宅にて死去。70 歳。

参考・出展元／立教大学大衆文化研究センター（旧江戸川乱歩邸）
https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rampo/
『乱歩の軌跡父の貼雑帖から』東京創元社
平井隆太郎・著／2008 年

EDOGAWA Ranpo (1894 – 1965/ Genre ; Mystery, weird fiction, thriller novel)
He better known by the pen name Edogawa Ranpo, was a Japanese author and critic who played a major role in the development of Japanese mystery and thriller fiction. Ranpo was an admirer of Western mystery writers, and especially of Edgar Allan Poe. His pen name is a rendering of Poe's name.
When he was 2 years old, he moved to Nagoya with his family and spent his impressionable student years there until he was 18 years old.

監修 / 山下達治 氏（あいち文学フォーラム代表）

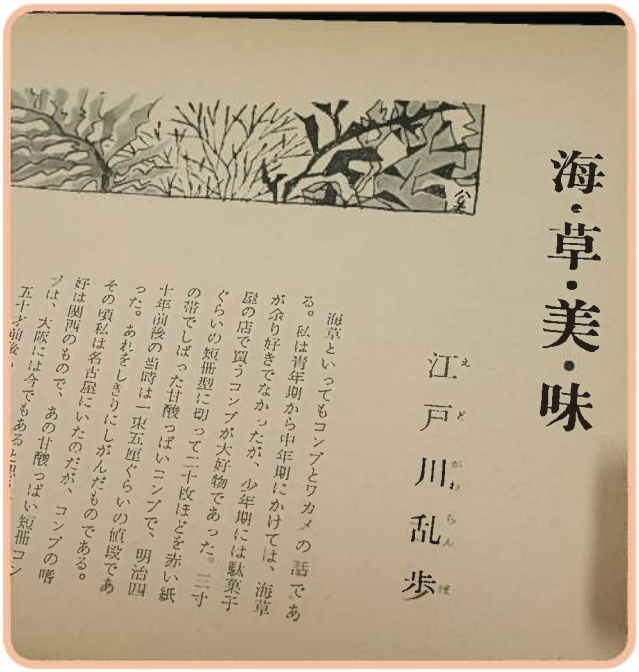
ジャンル / 小説

Novelist

名古屋市収蔵の資料 ／江戸川 乱歩

（一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館）

Collection related to Edogawa Ranpo in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

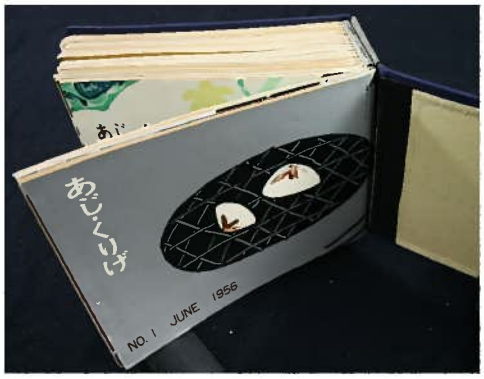


海・草・美・味

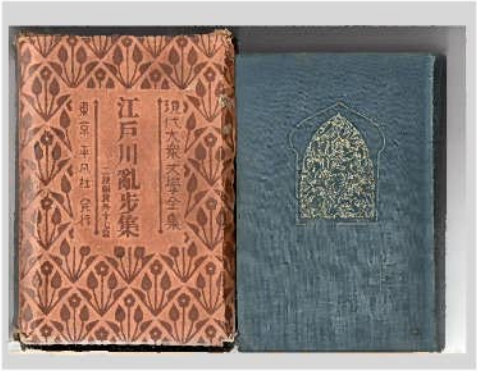
江戸川乱歩

海草といってもコンブとワカメの話である。私は青年期から中年期にかけては、海草が余り好きでなかったが、少年期には駄菓子屋の店で買うコンブが大好物であった。三寸ぐらいの短冊型に切って二十枚ほどを赤い紙の帯でしばった甘酸っぱいコンブで、明治四十年前後の当時は一束五厘ぐらいの値段であった。あれをしきりにしがんだものである。その頃私は名古屋にいたのだが、コンブの嗜好は関西のもので、あの甘酸っぱい短冊コンブは、大阪には今でもあるとの事。五十年前後、

←冊子「あじ・くりげ」創刊号に寄稿された「海・草・美・味」というエッセイ。名古屋に住んでいた少年時代の回想が書かれている。



↑冊子「あじくりげ」
創刊は 1956 年終刊は 2016 年。通算 693 号。当初は「あじ・くりげ」だった。東海地方の美味しいものを語る「食べもの随筆集」で名古屋の無料タウン誌のフロンティア的冊子だった。東海ゆかりの作家の執筆が多いが、乱歩以外にも尾崎士郎や海音寺潮五郎、野村胡堂といった時代時代の各界著名人が名を連ねている。



↑『現代大衆文学全集 第 3 巻』江戸川乱歩集
平凡社 /1927 年

上記資料の閲覧を希望される方は、文化芸術推進課または文化のみち二葉館までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。

※色は「郷土ゆかりの近現代文学史略年表」に準じます　※特別色・濃青…年代が江戸時代のため